

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

創立120年の歴史を有する本校は、平成29年に大阪府立初の併設型中高一貫校として新たな一歩を踏み出した。中高一貫教育を通して生徒・保護者・地域の期待に応える進路実現を図り、地域・社会に有為な人材（グローバル・リーダー）の育成を使命とするとともに、これまで培ってきた伝統にさらなる磨きをかけ、次代へ繋ぐ。

<中高一貫校としてめざす学校像>

「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献する人材」の育成校をめざす。

<中高一貫教育を通して育みたい力>

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

(1) カリキュラムマネジメントに基づき教育課程を編成し、各教科・科目においては、確かな学力を育成する授業・評価サイクルづくりを念頭に授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。

ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。

イ 「授業改革推進委員会」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。

ウ 各教科において中高6年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。

エ 学習時間を記録する生徒手帳の機能を活用し、家庭での学習習慣の定着を図る。

オ 1人1台端末の導入に向けて校内体制を構築し、生徒の学びを支援、深化させる。

※（生徒対象）学校教育自己診断における授業満足度（H30：74%、R01：74%、R02：76%）を向上させ、3年後に80%をめざす。

## 2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

(1) スーパーサイエンスハイスクールとして、「探究」と「貢献」をキーワードに中高一貫した教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成し、進学実績の向上を図る。

ア 科目「探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携を深め、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識及び、自己実現意識を育む。

イ・中高一貫した進路指導実現のため、学力向上戦略委員会を活性化させ、様々な取組みの具現化を図る。

・国公立大学進学者の合格者数（現役合格 H30：50名、R01：45名、R02：54名）について現役では40名以上を維持し、富田林中学1期生が富田林高校を卒業する2年後以降は50名以上の合格をめざす。同時に自己実現の志を高く維持させ、難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増を図る。

・国際社会における貢献意識の醸成もねらいとして、海外大学への進学ガイダンスを充実させる。

※（生徒対象）学校教育自己診断における進路指導の満足度（H30：82%、R01：84%、R02：86%）を維持向上させ、3年後に90%をめざす。

また、（保護者対象）学校教育自己診断における進路指導の満足度（H30：82%、R01：80%、R02：74%）について、3年後に85%をめざす。

## 3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

(1) 充実した学校生活こそが「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。

ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する。また、中高一貫した部活動指導も図る。

イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。

ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。

※（生徒対象）学校教育自己診断の学校行事満足度（H30：95%、R01：95%、R02：94%）90%以上を維持する。

(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。

ア 国際交流（アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ベトナム等）を継続し、充実を図る。

イ ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流を継続する。

・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。

ウ 大阪府の「スマートスクール推進事業」のモデル校として、海外の学校との交流を継続・深化させる。

※（生徒対象）学校教育自己診断結果で国際交流等についての評価（H30：88%、R01：91%、R02：86%）90%以上を維持する。

## 4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携

(1) 中高一貫校として再編した分掌組織について常に見直しを図り、6年一貫した教育活動の充実を図る。

ア 中高一貫の観点でそれぞれの校種の校務分掌等を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。

イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。

ウ 中高一貫校として、またSSH指定校として相応しい学校Webページの充実を図り、情報発信について質・量ともに改善する

※（保護者対象）学校教育自己診断における情報発信の満足度（H30：86%、R01：83%、R02：93%）90%以上を維持向上させる。

(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。

ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。

イ 安全・安心な学校づくりに努める。

ウ 地域貢献を推進する。

エ 富田林市が「SDGs未来都市」に選定されたことに伴い、学校として取り組めることを追求する。

※学校教育自己診断における学校満足度（生徒対象 H30：91%、R01：92%、R02：93% / 保護者対象 H30：95%、R01：93%、R02：90%）について90%以上を維持する。

## 5 働き方改革の推進

(1) 業務の効率化を図り、職員の心身の健康を維持・増進する。

ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則った部活動指導を行い、またノー残業デーを徹底し、時間外勤務を縮減する。

イ ルーティン化している校務や業務分担の在り方を見直し、全体としての業務軽減を進めるとともに、各人の業務平準化を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

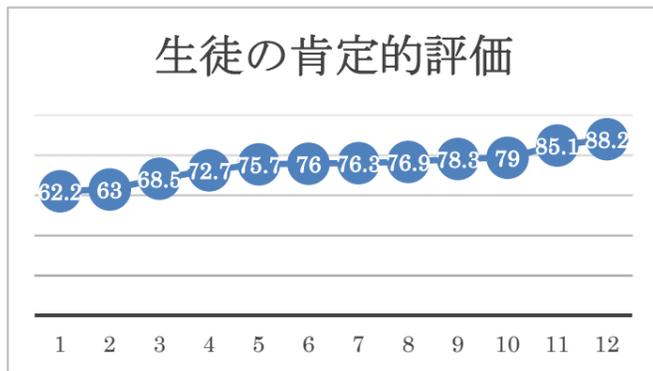
学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>学校教育自己診断結果の概要</p> <p>「 」内の番号は「学校教育自己診断」の質問項目に対応。  ( )内は昨年度データ。</p> <p><b>I 生徒・保護者</b></p> <p><b>1 学校満足度</b></p> <p>●生徒  「(19)富田林高校へ進学してよかった」・・・93.8% (92.7) ♪  ○保護者  「(19)富田林高校で学ばせることができてよかった」・・・92.6% (89.8) ♪</p> <p><b>2 確かな学力の育成</b></p> <p>●生徒  「(2)教員による ICT 機器の使用は、授業の内容を理解する上で効果的である」・・・96.6% (95.8) ♪  「(3)内容を深く考えさせる授業が多い」・・・85.7% (80.8) ♪  「(4)家庭学習を毎日 90 分以上している」・・・73.6% (70.6) ♪  「(5)探究 I・IIなどで深く考える力等が身につく」・・・84.1% (76.2) ♪  ○保護者  「(3)学校の学習活動への取組に満足している」・・・83.0% (79.4) ♪</p> <p><b>3 進路実現</b></p> <p>●生徒  「(7)授業や講習で進路達成に必要な学力が身につく」86.9% (84.2) ♪  「(8)学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」  ・・・90.9% (86.3) ♪  「(9)目標を定め、それに合った学校生活を送っている」  ・・・79.9% (80.2) ♪  ○保護者  「(5)学校の進路指導への取組みに満足している」・・・74.4% (73.5) ♪</p> <p><b>4 豊かな感性</b></p> <p>●生徒  「(14)学校の人権教育は適切である」・・・95.0% (91.6) ♪  「(15)学校行事に参加するのは楽しい」・・・95.0% (94.2) ♪  「(17)学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通じてグローバルな視野やコミュニケーション力の育成に努めている」  ・・・85.9% (85.5) ♪  ○保護者  「(7)学校の人権教育への取組に満足している」・・・90.5% (79.9) ♪  「(12)学校の学校行事への取組に満足している」・・・88.3% (87.2) ♪  「(16)学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通じてグローバルな視野やコミュニケーション力の育成に努めている」  ・・・81.0% (80.5) ♪</p> <p><b>5 保護者連携</b></p> <p>○保護者  「(8)学校は HP・ブログや「さくら連絡網」などで情報をよく流している」・・・92.5% (92.8) ♪  「(9)学校は保護者が授業を参観する機会をよく設けている」  ・・・71.3% (54.9) ♪  「(10)保護者説明会の回数・内容は適当である」・・・91.4% (86.2) ♪</p> <p><b>II 教員</b></p> <p><b>1 教育活動</b></p> <p>「(6)教員の間で、授業方法等を検討する機会が多い」85.4% (95.8) ♪  「(7)本年度の計画に、昨年度の教育活動に対する評価が活かされている」・・・73.7% (83.3) ♪  「(8)主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）を意識した授業をしている」・・・80.4% (87.5) ♪  「(9)生徒は探究活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力が身についた」・・・84.4% (93.8) ♪</p> <p><b>2 学校経営</b></p> <p>「(1)校長は学校運営についての考え方を明らかにし、リーダーシップを発揮している」・・・89.1% (97.9) ♪  「(2)学校運営に教職員の意見が反映されている」・・・80.4% (75.0) ♪  「(3)各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」  ・・・62.5% (54.2) ♪  「(4)中学との情報共有が十分図られている」・・・26.1% (33.3) ♪</p>	<p><b>第1回 (令和3年6月24日 (木))</b></p> <p>○未来に向けたコミュニティ・スクール構想について</p> <p>*外部から資金等の面で援助を受けるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「探究」で活躍した生徒が世界に羽ばたき地域に戻って活躍すれば、地元企業も協力してくれる。</li> <li>・企業に対して生徒の意見・アイデアを商品として提案するなど、win-win の関係にならないといけない。</li> <li>・企業は社会貢献を意識して経営しているので、企業理念を分析した上で提案するのが近道。</li> </ul> <p>*CSネットワークにおける瞬発性を高めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のネットワーク、特にグローバルな分野では個でのつながりが多い。組織的に取り組むために、同窓会等とのワーキンググループでの検討を経て、拠点化するのも大切。</li> <li>・海外の学校と交流しているが、国内の学校ともダイナミックにつながるようになればよい。</li> </ul> <p>○フリースクール（トゥルーカラーズ）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富校で不登校になる生徒には、複数のタイプがある。それぞれのタイプに合わせるために、できるだけ早く接触して対応していくのがよい。</li> <li>・中学とは連携が取れているが、高校の情報はあまり入ってこないようだ。高校段階でもできることがあるので、高校との情報共有ができればよい。</li> </ul> <p>※「フリースクールとの提携（出欠・成績・考査監督等の扱い）を継続する」ということを承認。</p> <p><b>第2回 (令和3年12月1日 (水))</b></p> <p>○報告に係る意見交流</p> <p>*学力について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力保障について中高ともに様々な取組みをする一方で、依然として習熟率は中高ともに高い。</li> </ul> <p>*探究・SSHについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業としては、生徒訪問後のフィードバックがあれば、次回生徒が来るときに何をすればよいか分かるのではないかと。</li> <li>・中学の段階から探究にSSHの視点を入れていく。</li> </ul> <p>*中学校の制服検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制服は高価なものなので、使いまわすことも考えてほしい。</li> <li>・LGBTQの議論が縮小していかないような形で、今後も検討していただいたい。</li> </ul> <p>○地域学校協働活動について</p> <p>*NPO 法人まなそだネットが運営する「探究教室」に富田林中学校生徒が現在参加していない件について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校では「探究教室」を「塾」という認識であって、コミュニティ・スクール活動の一環であると思っていなかった。地域学校協働活動という共通認識を持てるのであれば、学校としても勧めていくことができる。</li> </ul> <p>※「『探究教室』を地域学校協働活動として位置付ける」ということを承認。</p> <p><b>第3回 (令和4年2月22日 (火))</b></p> <p>○報告に係る意見交流</p> <p>*ヤングケアラーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度の学校経営計画にヤングケアラーの項目が高校には入っているが中学校の方には入っていない。中学校にも入れるべきではないかと。</li> <li>・生徒は自分がヤングケアラーだと気づきにくいので、学校からも気づくための手立てが必要ではないかと。</li> <li>・SSWを介して児童相談所などに入ってもらったケース会議を開き、学校・福祉それぞれの役割を把握することが必要ではないかと。</li> <li>・学校教育自己診断（生徒）で、進路情報についての項目は数値あがっているのに対し、目標をもって学校生活を送っているかの項目については微減している。現在、ヤングケアラーについてはトップダウンで降りてきているが、富校らしいケアができたらいのではないかと。</li> </ul> <p>*学校教育自己診断から見る課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高連携についての項目が中高ともにダウンしている。</li> </ul>

「(5)中学と協働的に取組みが進められている」・・・50.0% (37.0) ♪

#### ■分析等

#### ●生徒の肯定的評価は12年連続で上昇、グローバルな取組みへの評価は横ばい

下のグラフの通り、生徒の肯定的評価は過去11年間で上昇を続け、今年度は88.2%となった。質問数や質問内容が一部変わってはいるものの、3年前と比較しても約10ポイント上昇しており、生徒たちは本校の教育活動に対して概ね肯定的に捉えてくれているようである。「富田林高校へ進学してよかった」と回答した生徒は93.8%と、こちらも過去最高となった。この2年間はコロナ禍で様々な活動が制限されたが、「学校行事に参加するのは楽しい」という項目でも過去最高値(95.0%)を示すなど、生徒たちが今できる範囲で学校生活を満喫してくれている様子が窺える。一方でコロナ禍に大きく影響を受けた「グローバル教育」への評価は生徒・保護者共に横ばいとなった。「グローバル教育」は本校の教育活動の柱の一つであり、国内研修や今年度も実施したオンラインでの交流に今後も力を入れていくなど、その充実を図って参りたい。



#### ●授業への肯定的評価も過去5年間で右肩上がり

授業に対する生徒の評価も上昇傾向が続いている。授業を「わかりやすさ」「ICTの活用」「深く考えさせる」という3つの観点から調査した結果、肯定的評価はすべての観点において過去最高値となった。また1日90分以上家庭学習をしている生徒の割合も73.6%と過去3年間で上昇傾向にあり、生徒たちの努力が窺える結果となった。

「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」という項目でも9割を超える生徒が肯定的に評価している。これは進路に関連したホームルームの時間をより多くしたことが影響していると考えられるが、今後も生徒や保護者の皆様のニーズを踏まえ、進路の情報をより多く提供できるよう努めて参りたい。

#### ●探究への評価は過去4年で大幅増

探究活動に対する生徒からの肯定的評価も84.1%と高い水準にあり、探究について初めてアンケート調査した2017年度と比較すると約25ポイント増と大幅に上昇した。今年度の「探究I」ではフィリピンやネパールの高校との交流を軸として研究を行う国際コースを新設し、また文系のGEコースでも探究IIを必修とする等、本校では探究に関する取組みを拡大している。生徒たちも自身の研究に積極的に取り組んでおり、その成果として大阪府学生科学賞では中学と共に高校も学校賞を受賞した。こうした一つひとつの取組みが探究への肯定的評価に繋がったものと考えられる。

#### ●学校生活に関する項目も上昇傾向

学校の先生との関係に満足している生徒も調査開始以来、初めて9割を超えた。また「困ったことや悩みを相談できる先生がいる」という項目でも76.4%と肯定的評価が初めて7割を超え、教職員との関係にも一定の評価が得られているようである。人権教育やいじめへの対応に関する項目も肯定的評価が9割を超えており、今後も高い評価を維持できるよう、学校全体で努めて参りたい。

昨年度より新たに設けられた「学校における活動に主体的に取り組んでいる」という質問項目では2年連続で9割が肯定的に評価するなど、学校生活を充実させるために生徒自身も主体的に活動しようとしている様子が窺える。

#### ●情報発信に対する保護者の評価は高位横ばい

学校からの情報発信について、保護者の皆様からの評価は横ばいとなっている。ホームページやブログ、「さくら連絡網」での発信についての評価は昨年度と同様92%台となっており、今年度から新しくなったホームページも活用しながらより一層情報発信を図って参りたい。一方で昨年度と比較すると、保護者参観についての評価は54.9%から71.3%、保護者説明会についての評価は86.2%から91.4%と上昇傾向にあり、コロナ禍ではあるが今後も保護者の皆様が学校の取組みにより多く参加していただけるよう努めて参りたい。

- ・中学の「学校運営に教職員の意見が反映されている」の項目がダウンしている。
- ・データを踏まえたマネジメントは重要であり、自分たちの組織の変化を確認することができる。

#### ○中学校の制服について

- ・生徒や保護者に説明する際に、次のような配慮は必要ではないか。
- ・「制服着用についての教育的価値」や「式典時の課題」について、分かりやすく伝える。
- ・性別に関係なく制服を選べるのに、「女子用」とか「男子用」という文言があるのはよくない。
- ・新制服が「LGBTQ用の制服」というイメージがつかないように。

#### ※原案「制服は常時着用とする」

「新たにデザインを追加し、性別に関係なく、学ラン・セーラー服・ブレザー(パンツ、スカート選択可)のいずれかを選択する」

以上について承認。

#### 第4回(令和4年3月5日(土))

#### ○地域フォーラムについて

- \*「地域」は子供たちが参加する最初の「社会」であり、「とんこう地域フォーラム」は地域にとっても、子供たちにとっても、学びを核にして成長する掛け替えない機会になっている。
- \*自分の抱いた疑問や違和感をテーマとし、学内外から様々なアドバイスや指導を受け、しっかり掘り下げて形になるところまで作り上げている。
- \*大勢の前で発表することにより、達成感を感じ、プレゼン力の必要性も知り、自己肯定感も生まれる。
- \*発表テーマが多岐にわたり、SDGsも意識され、身近な事柄を扱っている。地域や企業・団体との繋がりから、発表内容を実際の活動・運動に繋げ、生徒たちの進路実現に活かせればなお良い。
- \*もう少し他業種の参加があればいい。

#### ○今年度の振り返りと来年度に向けて

- \*今年度は、コミュニティ・スクールとしてのミッションの実現と、新学習指導要領を実装するための取組みにおいて成果を上げている。他方で、「良いことは何でもやっていこう」という態度は大変すばらしいが、必然的に教職員の多忙化をもたらしている。
- \*来年度以降は教育的取組みにもコスト意識を持ち、あげた成果を列挙するだけでなく、どのようにしてあげた成果なのかが問われる。
- \*高校教職員に向けてコミュニティ・スクール研修会(今なぜコミュニティ・スクールに仕組みが必要とされているのか)を開催してはどうか。
- \*以前のように、生徒の代表を入れての熟議の機会があればよい。
- \*新型コロナの蔓延状況に関わらず、ハイブリット型(集合+オンライン)の学校運営協議会を設定したい。
- \*中高一貫校の成功例を私学も含めて視察し、情報を集めたほうがよい。
- \*教職員の多忙化や施設の問題については、学校運営協議会として教育庁に意見を言ってもよい。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。</p> <p>イ「授業改革推進委員会」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。</p> <p>ウ 各教科において中高6年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。</p> <p>エ 学習時間を記録する生徒手帳の機能を活用し、家庭での学習習慣の定着を図る。</p> <p>オ 1人1台端末の導入に向けて校内体制を構築し、生徒の学びを支援、深化させる。</p>	<p>(1) ア・45分×7限授業（高校全学年33単位）により、学校生活をデザインする。 ・完成させた新教育課程をもとに、次年度に向け教科書選定など準備を進める。 ・「観点別学習状況の評価」を試行実施する。</p> <p>イ・年度当初に教科ごとにアクティブラーニングの取組を検討し、各教員が「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインをもてるようにする。 ・定期考査において、「思考力・判断力・表現力」を問う問題づくりを進め、教科の枠を超えて学び合えるように取り組む。 ・中高合同の地域公開研究授業（DAY）を実施するとともに、全教科の教科研修を一定期間設け（授業交流週間 WEEKS）、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究を行う。 ・生徒による「授業アンケート」を7月、12月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。 ・「授業アンケート」の質問項目を見直すことにより、めざす授業像についての議論を活性化させる。</p> <p>ウ・中高の各教科において、それぞれの3年間の学びを可視化し、それを学校案内パンフレットに反映させる。 ・各教科、科目の各単元等が、育む力とどのように関連付けられているか見直すことにより、カリキュラムマネジメントを進める。また、探究など他教科・科目との教科横断的な観点で内容の配置や精選について検討する</p> <p>エ 生徒手帳に記録する学習時間を毎朝の SHR で確認することによって、家庭学習習慣の定着と、自学習時間の上昇を図る。</p> <p>オ 「オンライン学習研究会」を委員会組織に格上げし、校内体制の強化を図るとともに、具体的取組を進める。</p>	<p>(1) ア・（生徒対象）学校教育自己診断における授業満足度75%以上を維持向上させる。[76%] ・観点別学習状況の評価について半数以上の教科で試行する。</p> <p>イ・（教員対象）学校教育自己診断『『主体的・対話的で深い学び』(アクティブラーニング)を意識して授業をしている』85%以上を維持向上させる。[88%] ・（生徒対象）学校教育自己診断「深く考えさせる授業が多い」80%以上を維持向上させる。[81%] ・考査問題に、思考力・判断力等を問うものを半数以上の教科で含めるようにする。 ・教科研修期間を設け、半数以上の教科で研究授業を実施する。また、中高合同の地域公開研究授業を実施するなど校内全体で授業研究を実践できたか。 ・2回の「授業アンケート」を実施し、全教員による授業改善シートが作成されたか。[100%] ・「授業アンケート」質問項目の見直しが図られたか。</p> <p>ウ・学校案内パンフレットが完成したか。 ・各教科において、学びの内容についての議論が行われたか。 ・（教員対象）学校教育自己診断「授業方法や生徒の状況について話し合う機会が多い」90%以上を維持する。[96%]</p> <p>エ （生徒対象）学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」3学年平均75%以上をめざす。[71%]</p> <p>オ 生徒一人ひとりがタブレット端末を利用して学習に取り組める体制が構築できたか。</p>	<p>(1) ア・（生徒対象）学校教育自己診断における授業満足度は83.5%で過去最高値となり目標達成。(◎) ・観点別学習状況の評価について、すべての教科で試行を行うことができた。(◎)</p> <p>イ・（教員対象）学校教育自己診断『『主体的・対話的で深い学び』(アクティブラーニング)を意識して授業をしている』が77%で、昨年度と比べると10ポイント下落した。これは、アクティブラーニングの形態よりも、「深く考えさせる」という観点到教員の意識が移行していつているためと考えている。(△) ・「内容を深く考えさせる授業が多い」という項目においては過去5年間上昇基調で、今年度は85.7%で目標達成。(◎) ・定期考査を実施する全科目において「思考力・判断力・表現力を問う問題」の作成。さらに「出題した問題」と「その問題を解決する力を育成するために授業をどう展開したか」を資料にまとめる取組を実施した。昨年度よりも取組内容のハードルが高くなり全体化するところまでは至らなかった。(○) ・新たに4～5月に授業改革 WEEKS Basic（5週間）を実施した。また、10～11月に授業改革 WEEKS Advanced（5週間）と11月に授業改革 DAY を設け、全教科で研究授業と研究討議とを実施、研究協議内容は共有フォルダで共有。また、授業改革 DAY では研究授業に指導助言者や他校の先生方を招き、全体会では石井英真先生（京都大学大学院）に観点別学習状況の評価について講演いただいた。(◎) ・2回の「授業アンケート」を実施し、全教員で結果を分析。それを踏まえて授業改善シートを作成し、各自の授業改善に活用した。(○) ・授業改革推進委員会で「授業アンケート」質問項目について意見を聞き、管理職を中心に見直しを含めた議論がなされた。(○)</p> <p>ウ・学校案内パンフレットを完成させ、10月実施の学校説明会で配布することができた。(◎) ・パンフレット作成を契機として各教科における6年間の学びの内容を改めて検討し、それを可視化し内外に発信することができた。(○) また、中学・高校が各教科で連携し、生徒の学習状況や各学年での到達目標を共有しながら学習内容の見直しを行うことで、中高一貫校の強みを生かした学習内容を考える機会を持つことができた。(○) ・（教員対象）学校教育自己診断「授業方法や生徒の状況について話し合う機会が多い」85%であった。これは新型コロナ禍の対応に追われたことなどが要因の一つとして考えられるが、今後も継続的に機会を確保していきたい。(△)</p> <p>エ 3学年の4月～2月（3月はデータ集計せず）の平均は85%で、十分達成している。(◎)</p> <p>オ 全生徒にタブレット端末を配付し、校内及び各家庭で使用できる環境を整えることができた。必要に応じて教員研修や生徒へのマニュアル配付等を行った。(◎)</p>

<p>2 高い志を はぐくみ、 進路実現を めざす取 組み</p>	<p>(1) ア 科目「探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携を深め、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識及び、自己実現意識を育む。</p> <p>イ・中高一貫した進路指導実現のため、学力向上戦略委員会を活性化させ、様々な取組みの具現化を図る。 ・現役での国公立大学進学者の合格者数40名以上を維持し、同時に自己実現の志を高く維持させ、難関大学(京都、大阪、神戸等)への受験者増を図る。 ・国際社会における貢献意識の醸成もねらいとして、海外大学への進学ガイダンスを充実させる。</p>	<p>(1) ア・本校のSSH(開発型)の目標(課題解決に向けた科学的探究力及びその探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラムの開発)を具現化するプログラムを実行し、その成果を分析する。 ・SSHの取組みを推進するために目的別に5つの委員会を組織し、SSHの二期めの指定に向けて体制を盤石なものにする。 ・SSHとして、1年次の「探究Ⅰ」において、地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)との連携を基礎に、ゼミ形式で探究活動を進め、学年末には中学とともに学年での発表や地域フォーラムを開催する。同様に2年次の「探究Ⅱ」においても活動を深化発展させる。</p> <p>イ・学力向上戦略委員会を管理職主導の形に再編し、機能強化を図る。 ・本校独自の中高一貫した「学習見える化システム」を活用し、全生徒に将来の目標設定を促す。同時に同システムの継続性、汎用性を高めるため、教育産業との連携を見通す。 ・生徒・保護者への進学説明会を適宜実施する。特に、拡大しつつある「学校推薦型選抜」「総合型選抜」についての情報提供を充実させる。 ・生徒のニーズを捉えた進学講習を充実させる。 ・外部模擬試験の結果などの振り返りを、データに基づき効果的に実施する。 ・各学年の進度に応じて、「朝学」の教材開発に取り組む。同時にその効果検証を進め、今後の「朝学」活用に生かす。 ・高校1・2年生全員に英語能力試験(外部試験)を実施する。 ・海外進学についてのガイダンスを実施する。また、「おおさかグローバル塾」など、海外進学についての事業や説明会について、適宜情報提供を行う。</p>	<p>(1) ア・SSHとして本校の到達目標を具現化するプログラムによる生徒の成長をPROG(リテラシーテスト)等で分析できたか。 (生徒対象)学校教育自己診断「『探究Ⅰ・Ⅱ』などの学習活動によって、深く考える力等が身につく」70%以上を維持向上させる。[76%] (教員対象)学校教育自己診断「生徒は探究活動によって、深く考える力等が身についた」90%以上を維持する。[94%] ・SSH推進委員会を始め、再編組織は機能したか。探究活動の学年間の継承、発展などが図られたか。 ・地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)を巻き込んだ地域フォーラムを20団体以上の参加を得て開催できたか。[19団体] また府外の学校からも参加者を20名以上集めることができたか。 イ・学力向上戦略委員会によって新たな取組みを二つ以上具現化する。 ・生徒の「見える化システム」の利用率100%をめざす。同システムの継続活用のための見直しがなされたか。 ・各種説明会を実施するなど、進路についての情報提供を充実させ、学校教育自己診断における進路指導の満足度について、生徒対象は85%以上を維持向上させ[86%]、保護者対象は80%以上をめざす。[74%] ・2学年後半から計画的に進学講習(国・数・英)が実施できたか。 (生徒対象)学校教育自己診断「講習等で進路達成に必要な学力が身につく」80%以上を維持向上させる。[84%] ・模擬試験結果をデータに基づき振り返る取組みを2回以上実施する。[2回] ・「朝学」の教材開発ができたか。また効果検証を行い、今後を展望したか。 ・1・2年生全員が英語能力試験(GTEC)を受験し、その結果を「見える化システム」に反映させ活用できたか。 ・海外進学に関して説明会を実施するなど情報提供ができたか。</p>	<p>(1) ア・PROG等による分析を行い、その結果をSSH実施報告書に記載した。(○) (生徒対象)学校教育自己診断「『探究Ⅰ・Ⅱ』などの学習活動によって、深く考える力等が身につく」は84.1%で大きく向上した。(◎) (教員対象)学校教育自己診断「生徒は探究活動によって、深く考える力等が身についた」は84.4%で目標には届かなかったが、これは探究活動が質的に向上しルーブリックの取組みが進む中で教員側が厳しく自己評価したと考えられる。(△) ・SSH推進委員会をはじめ、その下部組織となる各種委員会も定例会議が活性化し、その協議内容の共有が確実に図られた。また、探究委員会において各学年の取組みの情報交換が深まり、次年度への継承・発展が大いに見込まれることとなった。(◎) ・3月に実施予定の地域フォーラムでは行政や大学、企業、NPOなど地域の19団体の参加があった。ただしコロナの感染拡大により、府外の学校からの参加者を募ることは中止せざるを得なかった。(一)</p> <p>イ・①模試と定期考査の関係を分析し、考査に難問や初見の問題を含める方向性について提言。 ②外部テストとアンケートを融合した、学習時間及び偏差値向上に効果的な指導の提示。 ③中学校段階で大学入試を意識する取組みの実施。 ④高1保護者向け学力向上講演の実施。 ⑤高2予備校講習の実施。 ⑥外部模試出題者による国数英教員対象学習会の実施 ⑦予備校講師による高3難関大講習の企画決定。などを具現化した(◎) ・民間教育産業の全国データを加えた「新見える化システム」を改変し100%利用した。(◎) ・学力向上に関する説明会は予定通り実施した。生徒、保護者ともに昨年度以上の数値であった生徒(90.9%)、保護者(74.4%)(○) ・高2後半の講習は大手予備校による短期講習を行った。3年次以降の講習については、大手予備校と本校教員の2軸で実施する計画し、2月に保護者に説明会を行った。(○) (生徒対象)学校教育自己診断「講習等で進路達成に必要な学力が身につく」は86.9%で、十分目標を達成。(◎) ・模擬試験結果をデータに基づき振り返る取組みを高1・2年で2回以上実施した。[各2回](○) ・英語の「読む・聞く・話す・書く」活動をバランスよく取り入れることで、4技能育成に向けて朝学を効果的に使うことができた。(○) ・1・2年の欠席者を除く全員が英語能力試験(GTEC)を受験し、その結果を大学受験と結びつく指標を加えた振り返り新聞部を作成し、生徒に返却した。「見える化システム」への反映はデータ上の紐づけはできているが、画面上は他の模試の成績軸とのすり合わせが難しく、活用にむけて開発途上である。(○) ・コロナ禍の影響もあり、海外進学に関する説明会は実施できなかった。(一)</p>
---	---	--	--	---

府立富田林高等学校

<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み</p>	<p>(1) ア 学校教育目標で設定した&lt;育みたい力&gt;の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する。また、中高一貫した部活動指導も図る。</p> <p>イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。</p> <p>ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。</p> <p>(2) ア 国際交流（アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ベトナム等）を継続し、充実を図る。</p> <p>イ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流を継続する。 ・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。</p> <p>ウ 大阪府の「スマートスクール推進事業」のモデル校として、海外の学校との交流を継続・深化させる。</p>	<p>(1) ア・文化祭・体育祭の準備委員会を活性化させるとともに、次年度への引継ぎ体制を構築する。 ・グローバルリーダーの資質を涵養すべく、生徒の自主性を引き出す行事運営を行う。 ・体育祭を大阪市立体育館で実施し、伝統を継承しつつ、新たな形態を作り上げる。 ・中高合同の部活動指導を、できる範囲で取り組む。</p> <p>イ・これまで実施してきた研修内容を踏まえ、新たな研修計画を立案する。 ・挨拶運動、遅刻指導に取り組み、生活マナーを向上させる。</p> <p>ウ 中高一貫した「いじめ基本方針」に基づき、いじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。</p> <p>(2) ア 新型コロナ禍の中、台湾やオーストラリア、タイをはじめとする様々な国の生徒との交流の可能性を探る。</p> <p>イ・姉妹校の状況を確認し、今後の継続交流に向けて見通しを立てる。 ・中高6年間を見通した海外研修を複数計画し、それぞれの研修のねらいを明確にしておく。また、海外研修の実施が無理な場合、国内における代替企画を立案、実施する。</p> <p>ウ スマートスクール「モデル校」指定を受け、海外の高校生等とテレビ会議システムを活用し、共同研究に取り組む。</p>	<p>(1) ア・(生徒対象) 学校教育自己診断結果における行事満足度 90%以上を維持する。[94%] ・体育祭を体育館で実施し、次年度以降に繋ぐことができたか。 ・部活動加入率 90%以上を維持する。[91%]</p> <p>イ・時代のニーズに合致した人権研修を1回以上実施する。[1回] ・(生徒対象) 学校教育自己診断結果における人権教育満足度 90%以上を維持する。[92%] ・(生徒対象) 学校教育自己診断結果における生活指導に対する理解 85%以上をめざす。[83%]</p> <p>ウ (生徒対象) 学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度 90%以上を維持向上させる。[91%]</p> <p>(2) ア 今後を見据え、海外の2校以上の学校と交流を実現させる。[1校]</p> <p>イ・姉妹校と今後の交流について意見交換ができたか。 ・ねらいを明確にした海外研修プランが完成したか。 ・新型コロナ禍の影響で海外研修が実施できなかった場合、代替企画を国内で実施できたか。 ・(生徒対象) 学校教育自己診断「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通してグローバルな視野とコミュニケーション力の育成に努めている」90%以上をめざす。[86%]</p> <p>ウ 海外の学校とテレビ会議システムを活用して共同研究が行えたか。</p>	<p>(1) ア・(生徒対象) 学校教育自己診断結果における「行事に参加するのは楽しい」95.0%、「学校は様々な教育活動（授業・行事・部活動等）を通じて、社会への貢献意識や将来社会で活躍する力の育成に努めている」92.2%、などから目標達成。(◎) ・新型コロナ感染症による臨時休校のため実施できなかった。プログラムや準備、大型スクリーンでのクラブ紹介等、次年度に引き継ぐ。(○) ・部活動加入率は89%と目標をわずかに下回った。引き続き新入生の入部勧奨に努める。(△)</p> <p>イ・今年度の人権研修は、府教委から指示されているもの(同和問題について)を含めて2回行った。(○) ・(生徒対象) 学校教育自己診断結果における人権教育満足度は95%と、アンケート開始以来の最高値。来年度もこの水準を継続したい。(◎) ・(生徒対象) 学校教育自己診断結果における生活指導に対する理解は84.0%で目標にわずかに届かず。これは生活指導への反発が高まったというより、高位安定化していると捉えられる。(△)</p> <p>ウ・(生徒対象) 学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度は92.7%でアンケート開始以来の最高値。来年度も90%以上を継続したい。(◎)</p> <p>(2) ア 3年前に本校を訪問したことのあるアメリカの学校との交流を再開し、本校の生徒約20名がオンラインでの英会話交流と、3か月間手紙でのやり取りを行った。また、「探究」の授業においてもフィリピン・ネパールの高校生との共同研究を実施した。(○)</p> <p>イ・新型コロナウイルスの感染拡大により、修学旅行は国内実施ということが早期に決定したため、姉妹校との意見交換は実施できなかった。(一) ・中高一貫校として、6年間を見据えたグローバル研修プランを作成し、新パンフレット・HPに掲載した。(○) ・夏休みには国内研修 English Camp Advanced を、冬には Global Academy を企画したが、前者は緊急事態宣言、後者は人数不足のため実施できなかった。(一) ・高校1年生は90%、3年生は88%と高い数値であったが、2年生は今年度の海外研修が実施できなかったこともあって81%にとどまり、全体で86%であった。(△)</p> <p>ウ・科目「探究Ⅰ」において、国際コースを新設。SDGsに関する調査を行い、グループ研究を行った。テレビ会議システムを活用し、フィリピン・ネパールの高校生との共同研究を実施した。(◎)</p>
---	--	---	---	--

府立富田林高等学校

<p>4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) ア 中高一貫の観点でそれぞれの校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。  イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。  ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページの充実を図るとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する</p>	<p>(1) ア・中学、高校それぞれの対応する分掌を協働的に機能させる。 ・各種委員会等の主担当などに経験年数の浅い教諭を充てるなど、人材育成も見据えた組織刷新を図る。  イ 全国の先進中高一貫校の視察等を通して、中高一貫教育を推進させるための取組みについて効果的な実例を収集し、カリキュラムや組織体制を充実させる  ウ 中高一貫校としてふさわしい学校 Web ページに全面改訂すべく、プロジェクト化して取組みを進める。</p>	<p>(1) ア・中高それぞれの対応する分掌を協働的に機能させ、(教員対象)学校教育自己診断における分掌等の機能や中高の協働性についての評価平均 50%以上をめざす。[46%] ・人材育成を見通した組織刷新が行えたか。  イ 中高一貫校の先進校情報を収集し、学校づくりに活かされたか。  ウ 中高一貫校としてふさわしい学校 Web ページが完成したか。 (保護者向け)学校教育自己診断における情報発信の満足度 90%以上を維持する。[93%]</p>	<p>(1) ア・(教員対象)学校教育自己診断における分掌等の機能や中高の協働性についての評価平均は 42%で、目標には届かなかった。(△)しかしながら、そのうち(教員対象)学校教育自己診断「各分掌等の連携が円滑に行われ有機的に機能している」は 62.5%で、過去 10 年間で最高値を示している。中高の協働性については、組織再編に課題があると考えている。 ・高校の各種委員会組織の運営については、経験年数の少ない教員も主担者に抜擢して刷新し、活性化が図られた。(◎)  イ 翠嵐高校・倉敷天城高校・津山高校の3校を、それぞれ進路指導、中高一貫校、SSH という異なる着眼点で視察し、視察内容を全教員で共有した。また各校の取組みを進路指導部や SSH 推進委員会等でも話し合う機会を設け、次年度に向けて視察内容を生かすための情報共有を図った。(○)  ウ 中高一貫校に相応しく、また、本校の特色である SSH 教育やグローバル教育についてより多くの情報を新たな発信ができる学校 Web ページが完成した。生徒達の日々の様子を写真や動画で紹介するなど、学校の現在の様子や生徒達の活躍を、より多くの教員が随時ブログ形式で発信できるようになった。(◎)また、(保護者向け)学校教育自己診断における情報発信の満足度 92.5%で目標達成できた。(◎)</p>
	<p>(2) ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。  イ 安全・安心な学校づくりに努める。  ウ 地域貢献を推進する。</p>	<p>(2) ア・学校運営協議会を通して、学校運営や学校の課題に対して、保護者や地域の住民の方々が学校運営に参画できるよう努める。 ・「めざす学校像」の共有化を図るとともに、コミュニティ・スクールについての情報収集を継続する。  イ・中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。 ・安否確認等を迅速に行えるよう、適当な時期に想定訓練を実施する。 ・教育相談委員会において情報を収集し、全教職員での共有化を図る。  ウ・地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。 ・地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)との連携を踏まえた「探究Ⅰ」の成果発表会である地域フォーラムを開催する。 ・地域貢献活動を実施する。</p>	<p>(2) ア・学校運営協議会において、保護者や地域の住民の方々が活発に意見交換を行い、学校運営に参画できたか。 ・学校教育自己診断における学校満足度について、生徒対象[93%]、保護者対象[90%]ともに 90%以上を維持する。 ・地域フォーラムやオープンスクール、地域公開授業など、地域や保護者に対して学校を開く機会を5回以上作る。[3回]  イ・防災訓練、安否確認想定訓練等を実施できたか。 ・(生徒対象)学校教育自己診断「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」70%をめざす。[68%]  ウ・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動をそれぞれ1回以上実施する。 ・地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)との連携を踏まえた「探究Ⅰ」の成果発表会である地域フォーラムを、前年度規模以上(令和2年度19団体参加)で開催できたか。 ・河川清掃などの地域でのボランティア活動を継続できたか。</p>	<p>(2) ア・学校運営協議会を3回開催し、活発な意見交換が行えている。【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】欄にて詳述。(○) ・(生徒対象)学校教育自己診断における学校満足度「富田林高校へ進学してよかった」は 93.8%で過去最高値、(保護者対象)学校教育自己診断における学校満足度「富田林高校で学ばせることができてよかった」は 92.5%となり目標達成できた。(○) ・3月実施の地域フォーラムを含めると、公開授業・授業参観・学校説明会(2回)と地域や保護者に対して学校を開く機会を5回作ることができた。(○)  イ・防災訓練(地震)では、建物の崩落等で通行できない場所を設定し、避難経路の確保を迅速に行って、より安全に避難する訓練や行方不明生徒の捜索など実際に想定した内容で実施することができた。(○) ・(生徒対象)学校教育自己診断「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」76.4%で十分目標達成。(○)  ウ・新型コロナ感染予防のため、他校との連携は行っていない。(一)</p>
	<p>エ 富田林市が「SDGs 未来都市」に選定されたことに伴い、学校として取り組めることを追</p>	<p>エ 地域の自然再生の取組みに参画し、「石川アユ再生プロジェクト」などで生徒会や科学部などが主体性をもって自治体に協力する。</p>	<p>エ 石川アユ再生プロジェクトの立ち上げに関わることができたか。</p>	<p>エ・「石川アユ再生プロジェクト」については、主催者側において動きがなかったが、生徒会執行部員が富田林市若者会議に参加し、未来に向けての施策を提案した。(一)</p>
				<p>・3月の地域フォーラムでは中学生や「探究Ⅰ」「探究Ⅱ」の発表を中心として、地域の約20団体も招待し、ポスターセッションを行うなど前年度と同規模で実施できた。(○)  ・河川清掃のボランティアは、主催者側が中止としたため参加できていない。(一)</p>

## 府立富田林高等学校

	<p>求する。</p> <p>オ 120周年を迎え、記念事業に取り組む。</p>	<p>オ PTA や同窓会とともに 120 周年記念事業委員会を発足させ、記念事業を推進する。</p>	<p>オ 120 周年記念事業を実施できたか。</p>	<p>オ 120 周年記念品として、正面玄関と職員室前の改装を行った。正面玄関は富田林中高の顔としてふさわしい空間に、また職員室前は掲示スペースを多く取り入れ利便性を高め、机と椅子を一新しより快適な場にする事ができた。(◎)</p>
<p>5 働き方改革の推進</p>	<p>(1) ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則った部活動指導を行い、またノー残業デーを徹底し、時間外勤務を縮減する。 イ ルーティン化している校務や業務分担の在り方を見直し、全体としての業務軽減を進めるとともに、各人の業務平準化を図る。</p>	<p>(1) ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」の徹底を図り、本校のノー残業デーである金曜日に掲示板等での呼び掛けも行って、定時退勤を促す。 イ 校務の見直しを行い、ルーティン化している業務の廃止もしくは効率化を進め、軽減を図る。</p>	<p>(1) ア ノークラブデーやノー残業デーが徹底されているか。一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務(令和2年度 45時間 29分)を1割削減する。 イ 校務の見直しを図り、二つ以上の業務の廃止をめざす。  ア、イとも、(教員対象)学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度 85%以上を維持向上させる。[85%]</p>	<p>(1) ア 適宜、ノー残業デー等呼びかけ、時間外勤務の縮減に努めた。一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務は49時間28分(1月末現在)となり、昨年比1割削減を達成できなかった。オンライン授業の取組みをはじめとする新型コロナ禍への対応や、学校独自及び府からの新規取組みの増加なども要因として考えられる。(△) イ 進路指導関係説明会の精選、教務文書(特に考査関係)のICT化、保健関係の当番回数削減、等により業務負担を軽減した。始業式・終業式・全校集会のオンライン化やHPリニューアルによりそれまで一部教員に偏っていた業務を平準化した。 「1人1台端末」を学校教育自己診断等の各種アンケートに活用することによっても、業務が大幅に効率化された。(○)  (教員向け)学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度は85.1%で、目標達成。(○)</p>